

【第3回】 ●日 時:平成21年3月14日(土) 13:00~16:45 ●場 所:「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」内、吉沢公民館 ●参加者:総数49名(地元、農大、平塚市、事務局ほか)

●『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』あいさつ
(協議会 増尾会長)

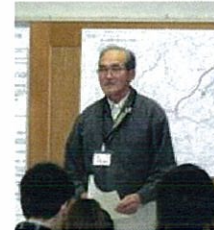
心配された天気も、皆さんの常日頃の行いの良さもあって回復したものと考えております。

ワークショップも本日で3回目となりますが、今回は、里山に入って実際に作業して頂くことになります。地元の私共は慣れてはいるものの、学生の皆さんに何か教えられるものがあれば良いと考えております。

本日は、皆さんに是非とも里山の良さを実感して頂き、「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」を発信地として「吉沢地区」の活性化につなげていけたらと考えております。

なお、本日は、平塚市からも小山田課長のほか4名の方にご参加頂いております。農大の麻生教授からもご指導を頂ければと考えております。

本日も一日よろしくお願い致します。



●東京農業大学あいさつ(農大 麻生教授)

本プロジェクトは、地元協議会、農大、事業者、平塚市といういくつかの主体が協働で進めているものです。このようなまちづくりは、議論だけでなく、体を動かして少しずつ成果を出していくことが、非常に重要なことと考えております。そして、そのプロセスを共有するというのが、皆さんの絆となっていきます。よくPlan→Do→Checkと言いますが、その流れが大切になります。1・2回目の議論がPlanであり、本日の里山活動がDoで、その後の懇親会がCheckとも言えるでしょう。このスパイラルで上がっていくということが、里山活動でも、他のまちづくりでも共通の考え方となります。

里山は、手を入れるのをやめしまうと、生物多様性が低下してしまいます。本日の活動を行うことで、弱い植物が共生できることになります。

私は、究極のレクリエーションは、野良仕事だと思っています。皆さんで楽しみながら里山を管理していければと考えております。最終的には荒れた里山がきれいになり、色々なレクリエーションの場となり、結果として活気のある地域となることを目指せればと考えております。本日はその第一歩となります。



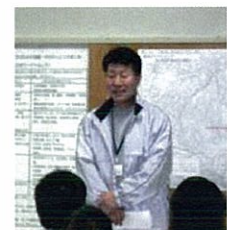
●平塚市あいさつ(平塚市まちづくり政策部 小山田課長)

本日は、皆さんの熱意で天気も回復したのではないかと考えております。私自身は、小さい頃から畑作業や里山管理といった経験をしており、本日の作業には非常に親しみ易さを感じております。

この協議会の取組みは、地域、大学生、事業者という色々な方々が協働で取り組んでいるものであり、平塚市が進めている「協働のまちづくり」を先導していく協議会だと認識しております。市としても、昨年の7月1日に「まちづくり条例」を施行しておりますことから、一緒になって取り組んでいきたいと考えております。そして、この「吉沢地区」を更に活性化していければと考えております。

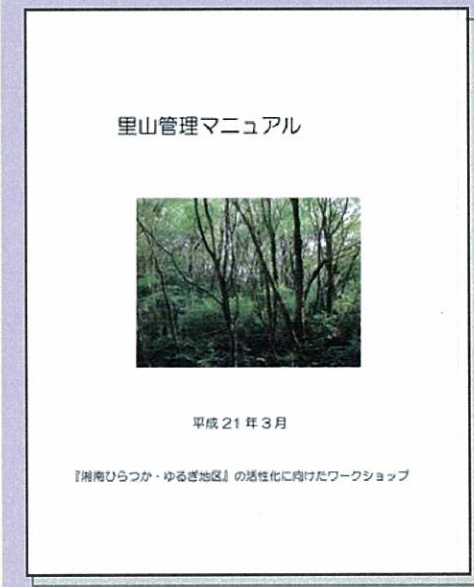
雨が上がったとはいえ、足元はかなり滑りやすくなっております。くれぐれも怪我がないようご注意ください。頑張ってください。

本日は、よろしくお願い致します。



ワークショップの概要

「里山管理マニュアル」



「里山管理マニュアル」に基づき、「下草刈り」の目的や意義を学んだ上で、実際の作業場所へ向かいました。

「下草刈り」の体験活動の様子

第1回・2回のワークショップを通じて、参加者から多くの意見を頂いた里山管理の基本となる「下草刈り」を体験的に実施しました。



▼林床が明るくきれいになりました。



懇親会の様子

▼次回の作戦会議?



▼農大名物”大根踊り”



農大 麻生教授からの講評

先ずは、これだけの面積をこんなに早く作業出来た事に驚いております。

私が活動している他地区と比べても非常に早いと思います。本日の活動で、これ位の人数があれば、これだけの作業量が出るということが分かったと思います。今後も継続していければ良いと思います。

一部、落ち葉かきをしました。2・3年後にキンランやギンランといった植物が見えるかもしれません。お楽しみとしましょう。

【第4回】 ●日 時:平成21年5月9日(土) 13:00~16:45 ●場 所:「湘南ひらつか・ゆるぎ地区」内、吉沢公民館 ●参加者:総数86名(地元、農大、平塚市、事務局ほか)

●『湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けた協議会』あいさつ
(協議会 増尾会長)

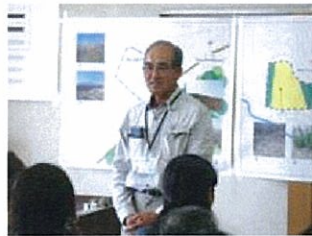
本日は、皆様、大変大勢の方にご参加を頂きまして、誠にありがとうございます。

この地区は、疲弊しているというわけではありませんが、これから活性化を実現していかなければならないという地区になってきております。この地区のなご一層の活性化に向け、皆さんのお力を是非お貸しして頂きたいと思っております。

本日は、半日という限られた時間ではありますが、皆さんと一緒に、いろいろな話しをしたり、情報を交換したりということで進めて頂ければ幸いです。

また、農大の宮林学部長、麻生教授、それからスタッフの皆さん、本日は一日よろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、あいさつとさせていただきます。

どうぞよろしくお願い致します。



●東京農業大学あいさつ(農大 宮林学部長)

現在、100年に一度という大きな経済不況といわれています。この地区には、そんなものをふっ飛ばしてしまう元気が出てきそうですが、1930年の頃にも大きな経済不況があり、実はその時に経済を支えたのが、農業・林業・漁業です。失業した人達がどこに戻るかというと、自分の田舎に戻っていく。つまり、百姓というのは、それだけ国・経済を担うベースを持っていたということです。何かあったら食べていける。つまり、逆に言うと、百姓がいなくなるというのは、国が潰れるということになるのです。

そういう意味で、国が1兆5,000億円位の経済対策を農山村に行うということを行っています。単にお金を入れるだけではダメで、まさにこの地区が行っているような地域コミュニケーションをつくりあげることが重要です。この地区での活動が、まさにそうです。

本日のワークショップは、まず、その第一歩を大地に植えていくということであろうかと思えます。是非そういう意気込みで頑張ってください。うちの学生も本日はたくさん来ていますが、農大の学生だから全部知っているとは限りません。むしろ、ほとんど知らないと思います。是非、地域の皆さんの知恵と技を学生にきちんと教え込んで頂きたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



●平塚市あいさつ(平塚市まちづくり政策部 蓮主査)

昨年の10月に、平塚市の20年後の都市像を描いた都市マスタープランが策定されました。この地域には、平塚ウェスタンヒルズといった名前が付いていまして、平塚の顔として、地域を活性化していこうという位置付けになっています。

この協議会は、地域資源の活用、地域の活性化、といったことを主な目的としているかと思いますが、その点について都市マスタープランに位置付けが記載されています。少しご紹介させて頂くと、地域資源の活用については、「学術機関や研究所及び地域農業などとの連携を進め、地域の人たちの生活と関わりを持つ緑地や農地の継続的な維持管理を進めると共に、その土地利用について検討します。」とあります。地域の活性化については、「里山に愛着を持つ人や農業の支援をしてくれる人、遊休農地を活用してくれる人、新しい生活スタイルとして地域の人となり、里山を支えてくれる人など、里山を理解する人の手を増やし、地域全体を活性化できるよう検討します。」とあります。

なお、本日の午後2時過ぎに大蔵市長が合流する予定となっています。農的作業の現場に直接来て、皆さんと一緒に作業をするということですので、ご承知おき頂きたいと思えます。



ワークショップの概要

農的活動(農作物の作付け等)

地域の課題解決策として、耕作放棄地に農作物の作付けを実施しました。作付けした農作物は「カボチャ」「サツマイモ」「ヤーコン」「エダマメ」「ショウガ」「ヤマイモ(ヤムイモ)」です。猪対策としてネットも張りしました。尚、当日は、大蔵市長にもご参加頂きました。



皆さん揃った中、大蔵市長も合流です。



本日の作業は地元の方々が指導者です。



大蔵市長も作付けにご参加。収穫の時にもご参加お待ちしております。



マルチング。みんなで力を合わせて、きれいに張れるかな。



作業も無事終了。暑い中の作業にかかわらず、皆さん元気いっぱいです。



立派に完成。どうか、たくさん収穫できますように。

里山管理体験「下草刈り」の成果確認

植生モニタリング調査の結果

管理地(下草刈り実施)		未管理地(下草刈り未実施)	
調査日	調査日	調査日	調査日
H21.3.11	21.4.16	21.3.11	21.4.16
低木・草本 16種	低木・草本 26種	低木・草本 15種	低木・草本 16種

管理地で新たに出現した植物



農大 麻生教授からの講評

「下草刈り」の成果の確認ということでは、3つの視点があると思います。1つ目は、景観という視点です。「下草刈り」をやったことによって非常に景観が良くなりました。里山というのは、レクリエーションの場所でもあり、一般の人にとっては、景観が良いということは重要なことだと思います。

2つ目は、生物多様性という視点です。単純な植生よりは、色々な植物や生き物がいた方がよいということです。このような里山は、放っておきますとアオキやアズマネザサなどの強い植物だけが優占してしまいます。それが里山の管理をしますと、優占種が排除され、今まで我慢していた植物が出てくることになります。

3つ目は、辺の農地との関係性という視点です。昔は、里山から薪をとり、落ち葉を肥料にしていました。落ち葉を集めて堆肥にして、それを畑に入れていました。肥料の供給源となっていたわけです。これから、より広い範囲の里山をどのように管理をしていくのかということを考えた場合、今の3つの視点から目的を考えていけば良いと思います。